

作曲家に訊く Vol.2 近藤 譲

2-1

近藤譲の「和声法」《時の形》、《忍冬》を中心に

2015年9月21日(月・祝) 18:00～21:00

出演者

近藤 譲

石塚潤一 (プレゼンター、聞き手)

2-2

近藤譲の「形式形成法」《三重奏曲(荒地)》から
《女声合唱の為の歌二篇》まで

2015年10月3日(土) 18:00～21:00

※開場時間は、両講座ともに 17:30

【会場】BUNCADEMY (東急東横線 学芸大学駅 東口から徒歩1分)

【住所】〒152-0004 東京都目黒区鷹番 3-1-3 リエール鷹番303号

【受講料】一般:各講座 2,500円/学生:各講座 2,000円

★ 2回通し券: 一般 4,000円/学生 3,000円

【ご予約/お問い合わせ】 info@buncademy.co.jp

【講座の概要】

近藤譲は、1973年以降「線の音楽」と自ら呼ぶ、一本の旋律的線をもとに聴く者の感性を擽るようなコンセプトにより、一貫して作品を書き続けてきた。今回は、この「線の音楽」での作曲に、音響的な厚みが加わってきた70年代末から80年代初頭、そして独自の形式感の萌芽がみられる90年代以降という二つの時期に焦点を当て、「線の音楽」というコンセプトを墨守することで生まれた、極めて独自の「和声」と「形式形成」の在り方について、お話を伺う予定である。先行研究の紹介や、新たな分析も必要に応じて行い、「コンセプトと作品の間にある諸々」を、可能な限りの精密さで明らかにしてみたい。かつてない試みであろうと思う。奮ってご参加されたい。(文責:石塚潤一)

～出演者プロフィール～

◆ 石塚 潤一

(いしづか じゅんいち)

評論:「松平頼則が残したもの」で、2002年度柴田南雄音楽評論賞奨励賞。以後、音楽批評家、制作者。読売新聞、音楽現代、洪水、ユリイカ別冊、ミュージック・マガジンなどに、音楽批評、時評、書評などを執筆。演奏会制作者として、2008年と09年「101年目からの松平頼則」を単身企画、制作。11年「松平頼暁 80歳の肖像」、12年「篠原真電子音楽演奏会」、13年「平山美智子 90歳の軌跡」を共同制作。東京都立大学理学研究科修士課程修了(物性物理:理論)。代表的な書き物として、以下の三点を挙げる。

■「標柱 シリンガーとバークリーの理論を巡って」(菊地成孔・大谷能生『憂鬱と官能を教えた学校』河出書房新社、所収) ■「豊饒なる音響の海へと船出せよ」(川崎弘二編著『日本の電子音楽 増補改訂版』愛育社、所収) ■「誤用・分節・カタストロフィー 松平頼暁の管弦楽曲を概観する」(『洪水』第13号 洪水企画、所収)



◆ 近藤 譲

(こんどう じょう)

1947年東京生まれ。東京藝術大学で作曲を学び、在学中からその作品が注目を浴びた。

1970年代初頭に、自ら「線の音楽」と名づけた独特の作曲方法論を提唱し、以後国際的に活躍。欧米の多くの主要機関や音楽祭から委嘱を受け、特集演奏会が組まれている。

ほぼ全作品の楽譜がイギリスのUYMPから出版され、『オリエント・オリエンテーション』『表面・奥行き・色彩』(以上コジマ録音)をはじめCD録音も数多い。

2012年、アメリカ芸術・文学アカデミーの外国人名誉会員に選ばれた。

国内外の多くの大学で教鞭をとり、講演をおこなっている。

お茶の水女子大学名誉教授。

主な著書に、『線の音楽』『聴く人(homo audiens)』(アルテスパブリッシング)、『音を投げる』『く音楽』という謎』(以上春秋社)、『耳の思考』(青土社)など。

作曲家に訊く

Vol.2

近藤 譲

